

特集『これからの木質フローリング』の発行にあたって

堀 江 秀 夫

石油ショックを契機に高気密高断熱住宅が普及しましたが、普及当初は換気計画を無視した住宅も見られ、換気不足から室内結露が発生しカーペットのダニ・カビ問題を生じさせました。また、経済の豊かさを背景とした住宅・公共建築の高級化や本物嗜好が進んだ結果、それまでのカーペットやビニル系床材に替わって、掃除が楽で清潔で高級感のあるフローリングが見直されるようになりました。しかし、フローリングの復権はフローリング製造技術に新たな問題を起こしました。

それは、次の3課題をどのように克服するかでした。

- (1) 高気密高断熱の建築が増える中で、健康と快適性を求めて室内の空気を対流させてホコリを立てることがない床暖房が普及すると、目すきや表面割れの発生しない床暖房用フローリングが要望されるようになった。
- (2) マンション等の床では、カーペット等のときは問題とならなかった床衝撃音が、フローリングに替えると階下に大きく伝わってしまい、耐久性のある防音床構造が要望されるようになった。
- (3) 高齢化社会の到来によって、すべての人が健康かつ快適に暮らせる社会とするため、安全で快適な床が具体的に求められるようになった。

林産試験場では、道内のフローリング産業にすぐに採用してもらえる技術を開発することを目標に、これらの課題に取り組んできました。そこで本誌では、その成果を取りまとめ特集号として発行することにしました。

この特集は、

「フローリングの伸縮を抑えるために」

「床暖房に木質フローリングを使うためには」

「静かな床をつくるために」

「人にやさしい床づくり」

という内容で組み立てられています。

最初は、狂いの少ない単層フローリングを作るための比較的簡易な処理法を検討しました。次に、床暖房用フローリングに対する要求性能と性能評価方法を解説し、公共施設対応型および体育館対応型の床暖房用フローリングを提案しました。床の防音対策に関しては、床衝撃音の説明と、様々な床構造・床材料と床衝撃音の関係を解説しました。最後に、高齢化社会の到来における安全な床、快適な床とは何かを紹介しました。

この小冊子により、様々な用途に適したフローリングが開発され、またそれを使った用途別の床が設計されることを期待いたします。

(林産試験場 成形科)